

科目名	伝熱工学 Heat Transfer Engineering			担当教員	小 島 隆 史		
学 年	5 年	学 期	前期	履修条件	選択	単位数	1
分 野	専門	授業形式	講義	科目番号	15131038	単位区分	履修単位
学習目標	1. 熱移動の基本形態（熱伝導，熱伝達，熱放射）を理解し，それぞれの形態における基礎的な伝熱計算ができる。 2. 熱力学の知識を土台として，熱移動の基本形態の立場から熱移動の量や速度の大きさなどを考察し，実際の熱機器の設計計算に役立てることができる。						
進め方	教科書に沿って進めていく。到達度を確認するため，定期的に課題レポートを課す。授業時間内に十分な説明をするが，理解を深めるため予習・復習が必要である。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. ガイダンス，伝熱工学概要(2) 熱移動の基本形態 2. 熱伝導に関する基本事項(2) 定常熱伝導の計算 3. 非定常熱伝導の基本式(2) フーリエの微分方程式 4. 熱伝達に関する基本事項(2) 無次元数の定義 5. 熱通過の計算(2) 熱通過率と熱抵抗 6. 熱交換器の伝熱の計算(2) 熱交換器の種類 7. フィン付き面からの放熱(2) 円柱フィンからの放熱			・ 熱移動の三基本形態を説明できる。 ・ 平行平板の定常熱伝導に関する基本的な計算ができる。フーリエの法則が説明できる。 ・ フーリエの微分方程式を導出できる。 ・ 熱伝達に関する基本事項が説明できる。 ・ 多層平行平板の熱通過に関する計算ができる。 ・ 単純な隔壁式熱交換器で交換される熱量を算出することができる。 ・ フィン効率の定義を説明できる。			
	[前期中間試験](2)			学習・教育目標との関連 (B-2) [B-2]			
	8. 対流熱伝達(2) 速度境界層，温度境界層 9. 境界層方程式(2) 連続の式，運動量の式 10. 境界層方程式(つづき)(2) エネルギーの式 11. 無次元量の物理的意味(2) 対流熱伝達に関する実験式 12. 熱放射に関する基本的事項(2) 熱放射の物理的性質 13. 熱放射の工学的利用(2) 二面間の放射伝熱 14. 沸騰と凝縮の熱伝達(2) 沸騰熱伝達，凝縮熱伝達			・ 自然対流と強制対流，層流と乱流，速度境界層と温度境界層，局所熱伝達率と平均熱伝達率を説明できる。 ・ 非圧縮性定常流の境界層方程式を導出できる。 ・ 各無次元量の物理的意味を説明できる。 ・ 放射伝熱の概念を説明できる。 ・ 単純な条件における物体からの放射伝熱量を求めることができる。 ・ 沸騰と凝縮の熱伝達の基本的な特性を説明することができる。			
	前期末試験			学習・教育目標との関連 (B-2) [B-2]			
	試験返却(1)						
評価方法	試験期ごとに定期試験を 90%，到達度確認のための課題レポートを 10%として評価し，総合成績 60%以上を合格とする。						
履修要件	特になし						
関連科目	熱力学（4 年） → 伝熱工学（5 年） → 伝熱工学特論（専攻科 1 年）						
教 材	教科書：北山直方「図解 伝熱工学の学び方」オーム社，ISBN4-274-08516-3						
備 考							